

英語科学習指導研究委員会

一 テーマ

新学習指導要領に基づく、主体的・対話的で深い学びを実現するための
外国語活動・英語学習のあり方 ～小中連携を通して

二 テーマ設定の理由

小学校は昨年度から、中学校では今年度から新学習指導要領が実施された。

それにともない、主体的・対話的で深い学びを実現するための英語学習が求められている。お互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫や、必要感のある場面設定、指導・支援のあり方について、小学校、中学校でそれぞれ実践を重ねていくことが必要である。

また、小学校5・6年生の授業では、チャンツや会話活動など音声を伴う活動だけではなく、文字を書く活動も取り入れられ、より四技能(五領域)を意識したものとなっている。

一方、中学校としては年々受け入れる生徒たちの英語学習の経験内容が変わってきていることについて、十分に理解する場が少ない。昨年度も取り組んできたが、小学校・中学校それぞれがどのような学習活動を行っているのか、授業を互いに見て実態を把握し、連携していくことが、今まで以上に必要である。

今年度は、研究内容として、次の2点に着目して研究を進めてきた。

- ① 実際に英語を用いて、主体的に互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫。
- ② 新学習指導要領における、評価基準と評価方法のあり方

外国語学習において、言語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を育てていくことは、小中学校の共通の課題である。また、新学習指導要領における評価基準や評価方法についても、小中学校の共通課題であることが分かってきた。そこで、小中学校の実践を基に、課題解決の手がかりになるような工夫を探り出したいと考え、本テーマを設定した。

三 研究の経過

第1回	令和3年	5月13日(火)	第1回委員会	研究テーマ設定と研究計画の作成(教育会館)
第2回	令和3年	6月21日(月)	第2回委員会	今後の研究の方向について(教育会館)
第3回	令和3年	8月6日(金)	第3回委員会	教育課程午後の研究協議について(東塩田小)
第4回	令和3年	11月29日(月)	第4回委員会	本年度の反省・研究のまとめ作成について(オンライン)

四 研究の内容および成果・課題

1 教育課程研究協議会 上田市立北小学校の実践に学ぶ

(1) 研究テーマ（北小 外国語活動・外国語部会）

友だちと伝え合いたいという願いをもち、自分からコミュニケーションを図ろうとする指導はどうあったらよいか。

(2) 学習指導案

① 単元名 NEW HORIZON Elementary 6 Unit6 Let's think about our food.

② 単元の目標

ALT の先生や友達に「オリジナルカレー」をよく知ってもらうために、食材やその産地・栄養素、食材を通じた世界のつながりなどに関する短い話を聞いてその概要が分かったり、簡単な語句や基本的な表現を用いて話したりすることができる。また、例文を参考に文を読んだり書いたりすることができる。

*なお、本単元における「書くこと」については、目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

【領域別目標】 話すこと「発表」ウ

身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて、話することができるようにする。

③ 本単元で目指す（願う）子どもの姿

○「伝えたい」「聞きたい」という願いをもって、「オリジナルカレー」について話したり、聞いたりする姿。

○自分の伝えたいことを話すために、食材や産地などの語句や様々な表現に気付き、工夫して話そうとしたり自分からコミュニケーションを図ろうとしたりする姿。

④ 言語材料

○What did you eat ~? I ate ~. I usually eat ~.

Where is ~ from? ~ is from ~ is in the . . . group. など

○食べ物 (rice, curry など) 食材 (beef, pork, chicken など)
食事 (breakfast など)

⑤ 評価規準 【話すこと〈発表〉】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 I ate ~. I usually eat ~. ~ is from . . . ~ is in the . . . group. 及びその関連語句や基本的な表現などについて理解している。</p> <p>〈技能〉 I ate ~. I usually eat ~. ~ is from . . . ~ is in the . . . group. 及びその関連語句や基本的な表現などを用いて話す技能を身に付けている。</p>	<p>「オリジナルカレー」についてよく知ってもらうために、食材・産地や栄養素などについて、考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話している。</p>	<p>「オリジナルカレー」についてよく知ってもらうために、食材・産地や栄養素などについて、考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとしている。</p>

⑥ 単元計画（単元計画の概要）

「話すこと〈発表〉」に焦点をおいた単元の指導計画（全8時間）

時	◆目標 ○主な学習内容及び活動	・指導、援助 ◎評価（方法）
1	<p>◆食べたものや食材の産地などについて、ALT/JTE のやり取りを聞いて単元で行う言語活動の見通しをもつ。</p> <p>○ALT と JTE の Small Talk を聞き本単元の題材を知り、「オリジナルカレー」について話すための表現に気付く。</p> <p>○【Let's Sing】【Word Link】ゲームを通して食材などの言い方に慣れ親しむ。</p> <p>○【Starting Out】音声や映像を視聴し、おおよその意味を捉え本単元で扱う表現に気付く。</p>	<p>・単元の終末で行う言語活動のモデルを示し、言語活動のイメージをもつことができるように ALT が JTE におすすめしたい「オリジナルカレー」を紹介する Small Talk を行う。</p> <p>・ALT を「6の3秋祭り」に招待し「オリジナルカレー」を作りたいという思いから、作る「オリジナルカレー」を決めるために「おすすめのオリジナルカレー」を考え発表したいという願いをもつことができるようにする。</p>
<p>Unit Goal 「おすすめのオリジナルカレー」を考えて、発表しよう。</p>		
2	<p>◆「オリジナルカレー」の発表に必要な語句や表現について知り、使いながら身に付ける。（第2、3時）</p>	<p>・食材や産地、栄養素などの言い方を知り慣れ親しむことができるように、【Let's Sing】【Word Link】【Starting Out】を行う。</p>
3	<p>○食べ物や産地について、絵カードを使って友達とたずね合う。</p> <p>I usually eat</p> <p>○歌やチャンツ、Picture Dictionary を使いながら、食べ物・産地に関する語句や表現に十分に慣れ親しむ。</p> <p>【Let's Sing】【Let's Chant】 Are you hungry?</p> <p>【Word Link】 食材・野菜などの言い方に慣れ親しむ。</p> <p>【Let's Listen 1】【Let's Try 2】 Where is the beef from?</p> <p>○「オリジナルカレー」をペアで考えよう。</p> <p>○Small Talk Where is the beef from?</p> <p>The beef is from Australia. Beef is in the red group.</p> <p>【Let's Sing】【Let's Chant】【Word Link】ゲームを通して食材・果物・野菜などに関する言い方に慣れ親しむ。</p> <p>【Let's Listen 2】【Let's Try3】 食べ物の栄養素のグループについてカードゲームで伝え合う。</p> <p>○「オリジナルカレー」の食材や産地をペアで伝え合う。</p>	<p>・発表に必要な語句や表現などを身に付けていくことができるように、Small Talk や児童同士のやり取りなどの言語活動の場を設ける。</p> <p>・食材などの語句や表現を使いながら、身に付けるようにカードゲームなどを行う。</p> <p>・「オリジナルカレー」について考え、調べる。</p> <p>・タブレットを活用して、自由に調べたり考えたりする時間を設ける。（学級活動）</p> <p>・タブレットを活用しながら、使用方法を身に付けられるようにする。</p>
4	<p>◆食材や産地、栄養素などを考えた「オリジナルカレー」について、必要な表現を使って話すことができる。</p> <p>○「オリジナルカレー」について、食材や産地、栄養素のグループなどを話せるようペアで伝え合う。</p> <p>【Let's Sing】【Let's Chant】</p>	<p>・ペアでやり取りしながら、「オリジナルカレー」を発表するために必要な表現をひきだすことができるようにする。</p> <p>・Picture Dictionary や教科書を使い、伝えたい内容を整理するようにする。</p>
5	<p>○「オリジナルカレー」の発表内容を考え、ペア活動を行う。</p>	<p>◎「オリジナルカレー」について、食材や産地、栄養素などの表現を使って話すことができる。</p>
本時	<p>◆「オリジナルカレー」をよく知ってもらうために食材や産地、栄養素などの表現を使って話すことができる。</p> <p>○Small Talk ALT/JTE の話を聞いたり反応したりしながら、「オリジナルカレー」の発表のイメージをもつ。</p>	<p>【知・技】（第4時）</p> <p>・Small Talk から、「オリジナルカレー」について考えや気持ちを伝えるための工夫や相手を意識した</p>

6	○「オリジナルカレー」をよく知ってもらうために、分かりやすく伝えるためにはどうすればいいのか考えアドバイスしあう。	話し方に気付けるようにする。 ・中間評価をして、「オリジナルカレー」を分かりやすく伝えるために工夫したことを振り返り、全体で共有する。
	◆「おすすめのオリジナルカレー」について、英文を書き写したり、読んだりして発表する。 ○「オリジナルカレー」を発表しあう。	◎「オリジナルカレー」をよく知ってもらうために、食材や産地、栄養素などについて考えや気持ちなどを話している。【思・判・表】(行動観察) ◎「オリジナルカレー」をよく知ってもらうために、食材や産地、栄養素などについて考えや気持ちなどを話そうとしている。【主体的】(行動観察) (第5, 6時)
7 ・ 8	◆日本と世界の食料事情について考え、世界と日本の文化に対する理解を深める。(ことば探検、世界のすてき)(第7・8時)	・「オリジナルカレー」について、伝えたい内容を整理して書き写す十分な時間を確保する。 ・映像や音声を視聴し、分かったことや気付いたことを確認する。(教科書 P58, 59)

⑦ 本時案

【主眼】 食材やその産地、栄養素のグループなどを伝える表現を聞いたり話したりしてきた子どもたちが、小グループで発表を見合い、分かりやすく伝えるための工夫についてアドバイスしあうことを通して、「オリジナルカレー」についてよく知ってもらうために相手を意識しながら話すことができる。

【展開】

	学習活動	予想される児童の反応	◇教師の指導・援助 ◎評価	時間	備考
導 入 展 開	1 あいさつ warm-up ゲームを行う。	・あいさつをする。 warm-up しよう。	◇あいさつをする。既習表現を想起し、コミュニケーションを楽しむ雰囲気を作ることができるように warm-up ゲームの時間を設ける。	4	
	2 Let's Chant	・デジタル教材 Are you hungry? を歌う。	◇食材や産地などを伝えるための表現を確認する。	4	デジ タル 教材
	3 Small Talk 話を聞いたり反応したりする。	・どんなオリジナルカレーかな。食材、産地、栄養グループがよくわかった。 ・みんなに分かりやすく話したい。	◇「オリジナルカレー」のいいところが伝わる発表にするために、大事にすべきことは何かを共有することができるように、「オリジナルカレー」を紹介する ALT/JTE の Small Talk を行う。 ◇既習表現を聞かせたり話したりしながら、発表に必要な表現を確認し、ペアで伝え合う本時の活動のイメージを持たせ Today's Goal を設定する。	6	
	4 今日のめあてを確認する。	Today's Goal ペアで考えた「オリジナルカレー」のいいところを友だちにわかりやすく伝えよう。		4	

	<p>5 「オリジナルカレー」についてペアで伝え合う。</p>	<p>○どんなカレーか伝えよう。食材や産地を伝えると分かりやすい。食材の栄養グループも伝えよう。 I like ~. It's ~. の言い方でも伝えよう。I usually eat~. の言い方もある。</p>	<p>◇Today's point を確認するために、Small Talk から「オリジナルカレー」のいいところを伝えている表現に気付かせ、子どもたちの気付きを板書で位置付ける。「食材」「産地」「栄養グループ」「I like ~. It's ~. おすすめの理由」「自分の気持ち I like ~.」のカードを掲示する。</p>	4	
	<p>6 小グループで発表の様子を見合う。</p>	<p>Hello. This is our original curry. Power up Pork Curry. I like pork curry. I usually eat pork curry. The pork is from Kagoshima. KUROBUTA. It's delicious. Pork is in the red group. The onions are from Ueda. Very fresh! Onions are in the green group. Power up pork curry is very delicious. Thank you.</p>		4	タブレット
	<p>7 友達のよかった姿や工夫していたことを発表する。</p>	<p>・オリジナルカレーのいいところを伝えたい。 ・ I like ~. It's ~. を付け加えよう。食材のいいところをもっと伝えたいな。どんな味か言ってみよう。</p>	<p>◇発表資料(タブレット)を準備させる。 ◇Today's point を意識できるように、ペア(2~3人)で、オリジナルカレーについて伝えたい内容を考え伝え合う場を設ける。 ◇発表の様子を録画し、録画映像を視聴しながら、アドバイスしあうために、流れを確認する。 ①録画する ②タブレットで確認する ③言葉・内容についてアドバイスしあう ◇内容や表現などについて、アドバイスできるように、Today's point を考えて話したり聞いたりするように促す。</p>	8	タブレット
	<p>8 小グループをかえて伝え合う。</p>	<p>・「オリジナルカレー」のいいところがよく分かった。食材のことを It's very fresh. と言っていた。○○さんは I like ~. と言って紹介していて分かりやすかった。 ・ アドバイスを受けたことや友達のよかった姿をいかして、「オ</p>	<p>◇発表の内容や英語表現についての気付きを共有することができるように、友達のよかった姿や工夫していたことを発表し合うよう促す。 ◇話し方、聞き方についての気付きを取り上げ、全体で振り返る。 ◇別の小グループにかえて、アドバイスや全体で確認したことをいかして、伝え合うようにする。 ◎「オリジナルカレー」をよく知ってもらうために、食材や産地などについて分かりやすく話しているか。</p>	5	

終末	う。 9本時の学習を振り返る。	<p>リジナルカレー」のいいところを分かりやすく伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルカレーのいいところを伝えられた。 ・I like ～. It's ～. を言っておすすめの理由を話せた。 ・いろいろなカレーのいいところがよく分かり、もっと聞いてみたい。 ・次は、みんなで「オリジナルカレー」を発表したい。 	<p>【思・判・表】（行動観察）</p> <p>◎「オリジナルカレー」をよく知ってもらうために、食材や産地などについて相手を意識しながら分かりやすく話そうとしているか。</p> <p>【主体的】（行動観察）</p> <p>◇伝えるときに工夫したことや「オリジナルカレー」について聞いて考えたこと、めあてに関わる振り返りや次時につながるコメントを取り上げ、全体で共有する。</p>	5	振り 返り カード
----	------------------------	--	---	---	-----------------

(3) 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 子どもたちの願いをもとに「おすすめのオリジナルカレーを考えて発表しよう」という単元ゴールを子どもたちと共に設定したことは、子どもたちにとって必要感のある場面設定となり、意欲を高めることにつながった。また、見通しをもって活動に取り組んでいくことにもつながった。
- 小グループで発表を見合いアドバイスし合う場を設定した。話すことに抵抗感のある子どもも話がしやすく、子どもたちは、話し手として声の大きさを変えたり、ジェスチャーを使ったり、聞き手を見て「Do you like～?」と問いかけたり問い返しに返答したり、聞き手としてリアクションしながら発表を聞いたり、質問したりと活発に活動した。相手を意識しながらお互いの思いを伝え合う活動を生み出すことにつながった。
- タブレットで撮影して自分たちの発表を見返したことは、自分たちの発表の様子を客観的にとらえることができ、よりよい発表にしようという意欲を高めることにつながった。
- 小グループで発表を見合いアドバイスしあう場面では、英語表現や内容に関わるアドバイスが少なかった。本時のねらいに沿って、アドバイスの視点を明確にし、よりよい発表にするためのアドバイスが引き出せるような工夫が必要であった。
- 友達のがよかった姿や工夫していたことを発表する活動の時間が十分にとれなかった。子どもたちが発表の様子から気付いたことやよい姿、子どもの困り感を取り上げて全体で共有したり、Today's Goal 達成に向けてよりよくできることを考えたりして、より自分の考えや気持ちを伝え合えるように支援を考えていかなければならない。

2 教育課程研究協議会 上田市立丸子北中学校の実践に学ぶ

(1) 学習指導案

授業学級 2年3組 授業者 百瀬一紀

① 学年・単元名 2学年 Our Project4「夢の旅」を企画しよう (Sunshine English Course2)

② 単元設定の理由

本単元では、京都で訪れてほしい名所やおすすめしたい物を生徒が決めだし、昨年まで本校のALTで、現在京都在住のハナ先生に、「京都のおすすめ」をプレゼンテーションで提案する活動を行う。京都で暮らすハナ先生がまだ知らない“京都”を知り、「行ってみたい」「試してみたい」と興味を持ってもらえるように、情報をまとめたり発表練習をしたりすることを通してよりよい提案を練り上げ、わかりやすくまとまりのある内容を発表することに挑戦させたいと考える。そのために、自分の考え・理由・具体例のように伝わりやすさを考えた文章構成を意識させ、ペアやグループでの練習の中で身に付けていくことが有効であると考え。生徒は4月に京都への修学旅行を控え、自分が実際に行く場所を調べることが学習の動機付けにもつながるであろうと考える。言語材料は、京都のおすすめを紹介する場面で、接続詞や助動詞の使用が想定される。これらと既習事項を組み合わせる自分の思いや相手に京都でしてほしいことなどを伝えることができると考えた。

生徒はペアやグループの活動に積極的に参加することができる。これまでに Small Talk をはじめ、夏休みの計画や将来の夢、屋台料理などについてやり取りする活動に前向きに取り組んできた。しかし、構成を考えてまとめた内容を発表する経験は、教科書 Program 終末の Retelling 活動のみである。そこで、生徒が自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えられるように、発表の構成を考えたり、表現方法を学んだりすることが必要である。それを発表につなげ、相手意識をもった話し方を学ぶことを通して、思考力・判断力・表現力を高めたい。また、4月から一人一台 Chromebook を用いた学習が可能となり、英語でも Google 検索やスライド、ドキュメント等を活用した学習を進めている。効果的な学習のために、タブレット端末を賢く活用する能力を身につけさせていきたい。

③ 領域別目標 話すこと [発表]

④ 単元の目標

京都で訪れてほしい場所やおすすめしたい物について、自分の考えやその理由などを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

⑤ 評価規準 話すこと [発表]

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①<知識>未来表現、接続詞(when / if / that)、不定詞、動名詞を用いた文の構造を理解している。	京都で訪れてほしい場所やおすすめしたい物について、自分の考えやその理由などを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	京都で訪れてほしい場所やおすすめしたい物について、自分の考えやその理由などを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。
②<技能>京都のおすすめについての発表の内容を適切に聞き取ったり、適切な言語材料を用いて話したりする技能を身に付けている。		

⑥ 単元計画

時	学習活動（時間）	留意点	評価
1	1 オリエンテーション（1） ・ Google Meet でハナ先生のメッセージを聞き、単元の目標を理解する。 ・ 教師おすすめの京都のスライドを見てイメージを持ち、紹介物（寺社、食、有名人、文化等）を決める。	単元の見通しを持つ場面 ☞京都在住のハナ先生からのメッセージを受けて、単元の終末に行うプレゼンの見通しを持てるようにする。 ☞教師が紹介する京都の写真や話から、生徒が京都への興味を持てるようにする。紹介物が重ならないように、能力差を配慮してグループ分けをする。	態
Lesson Goal：ハナ先生に、興味を持ってもらえる京都のおすすめを提案しよう。			
2 3 4	2 提案する情報を整理する。プレゼンに必要な言語表現や伝え方を身に付ける。（3） ・ 教科書のモデルを聞き、その内容理解とともに、使用表現などを確かめる。 ・ 伝える相手のことを考えて、場所や物を紹介する内容を考える。 ・ まとまりのある内容を伝えるために、プレゼンの構成を考える。 ・ アイコンタクトや声量、スピードなど、相手を意識した表現方法に注目して練習する。 ・ 個人やグループでの練習とフィードバックを通して、発表の技能を身に付けていく。 ・ 紹介物のカテゴリーごとに発表の練習をし、アドバイスし合って改善する。 ・ 録画機能を利用し、実際の状況で練習したり客観的に発表を観たりする。 ・ グループごとに1回目のプレゼンをする。	相手意識を持って考える場面 ☞自分が興味をもっただけでなく、京都に住む外国人のハナ先生におすすめすることを意識できるようにする。（例：外国と日本とのつながり、体験してほしい日本文化等） プレゼンのための必要な言語表現や伝え方を知り、身に付けていく場面 ☞教科書や教師のモデルの聞きとりや仲間との発表の練習等の言語活動を通して、単元終末のプレゼンに必要な表現を身に付けられるようにする。 want to ~ / like to ~ / enjoy -ing When you ~ / If you ~ / I think ~ / I believe ~ You can ~ / You should ~ / You will ~ First, / Second, / Third, ☞内容にまとまりを持って伝えられるよう、考え・理由・具体例の提示の仕方を意識できるようにする。 ☞相手意識をもった伝え方にはどのような物があるか、生徒の思いも大切にしながら、教科書の内容や練習から気づけるようにする。（アイコンタクト、声量、スピード、強勢、ジェスチャー、問いかけ、写真、等） ☞グループ同士の練習を通して、課題を見つけ、よりよいプレゼンができるようにする。 ☞タブレット端末を利用し、プレゼンを想定して実際に Google Meet で練習の機会を設ける。また、録画をして自分の姿を客観的にみる。	知① 知② 思
5 本 時	3 ハナ先生に京都のおすすめをプレゼンする。（1） ・ 受けたコメントを全体で共有し、グループで改善する。 ・ 2回目のプレゼンをする。	京都のおすすめを紹介する場面 ☞前時に行った1回目のプレゼンに対するコメントを全体で共有する。改善のポイントを明確にし、グループごとにプレゼンを練り直すよう促す。 ☞個へのフィードバックもグループで共有させる。	知② 思

※毎時間記録に残す評価は行わないが、生徒の活動の状況を見届け、目標に向けて指導を行う。記録に残す評価は□で示す。第2時以降「主体的に学習に取り組む態度」は「思考・判断・表現」と一体的に評価する。

⑦ 本時案

【主眼】

京都のおすすめを紹介する場面で、プレゼンに必要なことを確認したり、コメントや中間評価を手がかりにプレゼンを改善したりすることを通して、自分の考えや理由、具体例などの内容のまとまりをもって、アイコンタクトや話し方など相手を意識して伝えることができる。

【本時の評価規準】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	2回目のプレゼンを改善して、内容のまとまりをもって、相手を意識して伝えている。	2回目のプレゼンを改善して、内容のまとまりをもって、相手を意識して伝えようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文で話すことができる。	内容のまとまりをもって、相手を意識して伝えている。	内容のまとまりをもって、相手を意識して伝えようとしている。
c	bを満たしていない。	bを満たしていない。	bを満たしていない。

【展開】

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・支援 評価	時間	備考
導 入	1 ハナ先生の話聞く。活動の流れを確かめる。	ア ハナ先生からもらった1回目のプレゼンのコメントを、2回目のよりよいプレゼンに生かせるといい。	◇Google Meetでハナ先生から1回目のプレゼンに対する全体的なコメントを生徒に伝えてもらい、Today's Goalを設定する。	5	Google Meet
	2 コメントを読んでプレゼン改善の方向を考える。これまでの学習で積み重ねてきた、プレゼンをする上で大切なことを確認する。	イ ハナ先生から英文の内容についてコメントを受けた。 ウ 相手を意識した表現方法や、内容のまとまりについて学んできた。	◇ハナ先生からの各グループに対するコメントを配り、全体共有する。これまでに学んだことも振り返り、Today's Pointにすえ、プレゼン改善の意識付けをする。	5	
展 開	3 全体共有の内容や各コメントをもとに、グループでプレゼンを改善する。	エ 話すスピードやアイコンタクトについてさらによくできるとコメントをもらった。 オ 例示の仕方やその場所の近くにある物を教えてほしいとアドバイスもらった。 カ 相手の意識にたって、よりわかりやすく伝えられるようにしよう。	◇改善のポイントを明確にし、グループごとにプレゼンを練り直すよう促す。 ◇教師から見た1回目の発表の姿の良さを示しながら、さらに伸ばしたいところを伝える。 ◇困っているグループには改善のポイントを具体的に示す。 ◇時間があれば、グループ内でプレゼンの練習をするように促す。	20	ワークシート Chrom ebook
	4 3グループが全体でプレゼンをする。聞き手として発表者の良さを見つけられるようにする。	キ Second, you should go to Nishiki Ichiba. It's near Karasuma Station. You can enjoy eating local food in Kyoto. For example, kushiyaki is good. There are many kinds of kushiyaki. I think you will find new taste.	◇3グループに2回目のプレゼンを促す。コメントを受けて改善したことに特に注意して発表できるように促す。残りのグループのハナ先生に対する発表時間を後日確保する。	15	Google Meet
終 末	5 本時の振り返りをする。	ク 外国の方にわかりやすさを意識して伝えられた。	◇Google Forms で振り返りをするように指示する。 評価：内容のまとまりをもって、相手を意識して伝えている。(生徒の様子、振り返り)	5	Google Forms

⑧ 討議の柱(実証の観点)

- (I) ALTに京都のおすすめをオンラインで紹介する場面設定をしたことは、生徒が英語で伝える必要感をかんじながら取り組むことにつながったか。
- (II) アドバイスのコメントや中間評価をもとにプレゼンを改善したことは、内容のまとまりをもって、相手を意識して発表することにつながったか。

(2) 成果と課題

① 討議の柱 (I) について

本授業の場面を設定する上で、「相手意識を持った活動」と「活動の見通しを持って取り組むことができる活動」を軸に考えてきた。そこで、本校で以前勤務していたハナ先生が現在京都に住んでいることもあり、ハナ先生に生徒が調べたおすすめ京都を紹介することを目標に単元を展開していった。単元の最初の段階で、ハナ先生におすすめの京都を直接伝える活動をする、ということを生徒に伝えると、どの生徒もハナ先生との会話を楽しみに学習に取り組むことができていた。また、おすすめ場所やものを伝えるための表現を学ぶことの必要感を感じ、熱心に学習に取り組む姿も見られた。ハナ先生からもらったアドバイスをもとにプレゼンを改善する授業では、ハナ先生により分かりやすく京都の魅力を伝えようとグループ内で相談をする姿が見られるなど、伝える相手のことを考えた活動にもつながったように思う。

一方で、長野県に住んでいる中学生がインターネットで調べた情報を京都在住の外国人に伝える場面には少し無理があり、逆にハナ先生からおすすめ京都を伝えてもらう活動にしてもよかった、という反省も残った。また、クロームブックを使って、**Show & Tell**形式での発表となったが、生徒が画面を見せながら、説明するという活動に慣れておらず、説明する画面に注目するあまり、ハナ先生の方を見て説明することができなかつたり、早口になってしまつたりして、相手に分かりやすく伝える、という点においては課題が残った。

② 討議の柱 (II) について

ハナ先生からグループごとに指摘された問題点をグループ内で検討し、より分かりやすく説明するための英文を考えたり、アイコンタクトやジェスチャーを用いながらより伝わりやすい説明の仕方を考えたりする姿が見られた。その結果、1回目よりも自信を持って伝えることができるグループが増えた。あるグループでは、千本鳥居を説明する場面で、最初は“Long Torii road”としていたものを他のグループメンバーの指摘を受け、“many tori on the long road”と書き直すなど、グループ内で相談してより良い英文を考えることにもつながっていた。

しかし、同じ相手に2度おすすめ場所を紹介するという場面の設定には不自然な感じも残った。生徒が作ったプレゼンをまずはクラス内で発表し、課題を見つけ、グループ内で練り直し、ハナ先生にプレゼンをする、という流れの方が実際の場面としては良かったかと思われる。

授業を作るうえで、実際の言語使用の場面を考え、誰に、何を、何のために伝えるのか、を考えていく必要性を強く感じる事ができた。

五 研究のまとめと成果

今年度は、コロナ禍の中、教育課程研究協議会がオンラインで行われた。実際の授業を参観するという形ではなく、授業の様子をオンラインでダイジェスト動画を見るという形となったが、授業の充実した様子が十分に伝わってきた。また、7月に行われた事前授業は、参加者を制限して参観することができ、実際の授業を見ることでしか得られない貴重な学びを得ることができた。

北小学校の実践では、子どもたちの願いをもとに「おすすめのオリジナルカレーを考えて発表しよう」というレッスンゴールを設定し、子どもたちにとって必要感のある場面設定を設けることで、意欲を高め、見通しをもって活動に取り組んでいく実践につながった。また、小グループで発表を見合い、アドバイスする場面を設定することで、話し手と聞き手が互いに聞いたり質問したりする活動に発展していった。この学習では、chromebook で子どもたち自身がスライドを作成し、より分かりやすく発表する工夫をしていたり、chromebook で話し手の発表を録画して見合ったりするなど、ICT を活用して、子どもたちの意欲を高め、よりよい学びにつなげていく工夫が見られた。

丸子北中学校の実践では、京都在住で以前勤務していたハナ先生に、生徒たちが調べた「おすすめの京都」を紹介するというレッスンゴールを設定し、「相手意識を持った活動」と「活動の見通しをもって取り組むことができる活動」を軸に授業を展開することで、どの生徒も必要感を感じ、熱心に取り組む実践につながった。また、ハナ先生からアドバイスする場面を設定することで、より分かりやすい表現を考えたり、より伝わりやすい説明の仕方を考えたりする姿につながっていった。丸子北中の実践でも、chromebook を使って show&Tell 形式での発表を行っており、北小同様、ICT を効果的に活用していた。

委員会では、今年度の研究内容に則して、2校の実践を基に、小中学校の英語学習に取り入れていきたい点を下記のように考えた。

- ① 実際に英語を用いて、主体的に互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫。
 - ・児童生徒に必要感を持たせるような場面設定や目的意識を持たせること。
 - ・chromebook を始めとする ICT を授業に積極的、効果的に活用できる言語活動を設定すること。
 - ・英語に苦手意識をもった児童生徒でも活動に参加しやすいように、小グループで発表を作ったり検討し合ったりすること。
- ② 新学習指導要領における、評価規準と評価方法のあり方
 - ・評価規準をその単元目標に則した形で明確に定めること。
 - ・chromebook などの ICT を授業の中で用いて、児童生徒が発表を作ったり、自分や友だちの発表を録画したりすることは、活動の様子が形として残り、評価する上で有効であること。
 - ・Google フォームなどの ICT を用いて授業の振り返りなどを行うことは、授業評価や児童生徒の意識を素早く把握することに有効であること。

今年度は中学校で新学習指導要領が実施され、教科書やその内容も大きく変わり、多くの中学校では試行錯誤の年となった。また、教育課程研究協議会がオンラインとなったり、他校への授業参観が自粛されたりするなど、実践を情報共有する場が大きく減ってしまった。

小学校では、新学習指導要領実施2年目となり、各校で工夫した実践が行われている。5・6年で「外国語」が教科となり、学習内容も多くなった。中学校ではそれに対応した授業を模索する必要がある。また、小学校でも中学校での実践からより効果的な指導法を学んでいく必要がある。

児童生徒がより効果的に学習できるようにするためには、小中連携して互いの学習について理解を深めることが必要である。参加人数や会場のことなどの課題があり、教育課程研究協議会の小中合同開催は難しいが、より多くの先生方が異校種の学習について知る機会を増やしていくことが望ましい。

来年度はコロナ禍が終息し、小中互いに授業を見合い、学び合えることを切に願う。